

関之尾公園再生から

始まる――

都 城市の観光地といえ
ば真っ先に名前が挙
がる関之尾公園。雄大な霧
島ジオパークに囲まれる同
公園では、「日本の滝百選」
に選ばれている「関之尾滝」
や、長い年月をかけて火山
の噴火や清流でできた
とされる国の天然記念物「関
之尾鰐穴群」など固有の自
然景観に目を奪われます。

また、地元産品を販売する
「滝の駅せきのお」や、宿泊
施設「関之尾緑の村」など
を備え、観光名所として名
をはせてきました。宿泊体

験や夏休みの遊水、知人の
案内など、市民の皆さんそ
れぞれの思いもあること
でしょう。

一方で、滝の見学とトイ
レ休憩を短時間で済ませる
「通過型」の団体客が多く、
施設の老朽化も相まって、
市を代表する景勝地であり
ながら地域の活力に十分寄
与できていない状況が続い
ていたことから、市として
も打開案を模索していまし
た。このような中、アウト
ドア用品メーカー「スノー
ピーク」に関之尾公園のリ

ニューアル計画についてア
ドバイスを求めたことを
きっかけに、状況は好転し
ていくことに。

高品質なキャンプ用品で
知られるスノーピーク。熱
心なファン「スノーピー
カー」に支持される革新的
な製品の展開や全国各地で
キャンプフィールドの運営
などを行っています。キャ
ンプと地域産業を結び付け
る地方創生も全国各地で実
践している同社。これらの
知見を生かし、関之尾公園
全体の豊かな自然を余すこ
となく楽しんでもらうこと
をコンセプトに、本年4月
27日、「通過型」から「滞在
型」への移行を目指して同
公園はリニューアルオープ
ンしました。

リニューアルには、市や
同社に加え、関之尾公園が
ある庄内地区住民も参画。
元来、住民主体の活動が盛
んな同地区では、リニュー
アルを地域活性化の起爆剤
とすべく、さらに活動を活
発化させています。

自然を感じながら心豊か
なひとときを過ごせる関之

尾公園。宮崎市から訪れた

友人を案内していたのは、
市内在住の吉住玲音さん
（上写真手前）です。吉住さ
んは「自然あふれる公園を
散策したり、レストランで
テイクアウトしたコーヒー
を飲んでくつろいだり。緑
の中で自然と心がほぐれ、
久しぶりに会う友人と楽し
くお喋りできました」と笑
顔を見せてくれました。

今回の特集では、生まれ
変わった関之尾公園を紹介
するとともに、その波及効
果などについて住民や事業
者の声を聞き、専門家にも
インタビューを行いました。
さらに、キャンプや散
策、食事など、さまざまな
目的で公園を訪れている人
たちの笑顔をカメラに収め
ました。市民の皆さんが胸
を張って自慢できる関之尾
公園。本特集でその魅力が
少しでも伝わることを願っ
ています。

◎問い合わせ

みやこじよPR課

☎23-2615

秘書広報課

☎23-3174





1
モバイルハウス「住箱—JYUBAKO—」
著名な建築家・隈研吾氏とスノーピークの共同開発。木のぬくもりを感じながら快適に過ごせます。



2
コテージ
テントを持っていない人も自然を満喫できるコテージ。屋外デッキからの絶景をお楽しみください。



3
ストア
南九州初のスノーピーク直営店。店舗限定品や地元特産品など、都城の魅力が詰まった商品がそろっています。



4
レストラン～Blue Bird dining～
焼ききたてのパンや地元食材を楽しみながら、童話「青い鳥」のように「小さな幸せ」を見つけられる空間です。



5
スノーピークカフェ
名産品「都城茶」と地元食材にこだわった自家製スイーツがおすすめ。ふわふわのドーナツは大人気メニューです。



6
キャンプフィールド
開放的な川沿いのキャンプサイト。関之尾滝を眺めながらキャンプを楽しめる区画もあります。



7
関之尾滝
滝の前の吊り橋からは壮大な滝を間近に見られます。落水の飛沫と太陽光が作り出す虹が見えることも。



8
庄内川・関之尾鵜穴群
川底に広がる世界最大級の鵜穴群。庄内川の水流と朝霧が織りなす幻想的な風景も見どころです。

＊ snow peak

MIYAKONOJO

Campfield

スノーピーク都城キャンプフィールド

◎場所 関之尾町6615-2

◎営業時間 10時～18時
水曜定休

◎問い合わせ ☎57-8881



滝を見て散歩をしたり、ストアで
買い物をしたり、レストランやカフェで
ゆっくりとくつろいで。お気に入りの過ごし方を
見つけに来ませんか。



スノーピーク都城

一丸賢人さん、高橋弥生さん、田中芳正 店長

かしてキャンプサイトや直営店、遊歩道をバランス良く配置しながら、リニューアルが進められました。若松さんが語る関之尾公園の魅力とは、十人十色のお気に入りの場所が見つかること。生まれ変わった同公園を前に、若松さんは「いわゆる絶景スポットをピンポイントで巡るのではなく、ゆっくり滞在することで、季節や天候、時間帯によって変わる自然景観に出会ってほしい」と力を込めます。また、同公園の大きな特徴は、キャンプをする人もしない人も1日中楽しめる点。キャンプフィールドのほかに宿泊施設であるコテージやモバイルハウスの設置など、スノーピークとしての初の試みも複数あります。

「市民の皆さんにとって関之尾公園が、親戚や知人などが都城を訪れた際に連れて行きたい自慢の場所になってほしい」と願いを込める若松さん。自然と人が織りなす新たな物語が、関之尾公園から始まるようにしています。

「庄内川の朝霧がかかる光景が忘れられない」と語るスノーピーク地方創生コンサルティングの若松隆一シニアマネージャー。4年前に関之尾公園内で1泊2日のモニタリングキャンプを体験した若松さんは「宿泊してこそその魅力を新たに数多く発見した」と振り返ります。同公園再生には、整備段階から若松さんをはじめとしたスノーピークスタッフが運営予定者として関与。「開発ありきではなく、今ある自然を楽しんでもらう」ことを念頭に、公園の地形や自生の植物を生

自然と人の新たな物語

スノーピーク地方創生コンサルティング
若松 隆一
シニアマネージャー





古賀 正則 さん
美香 さん(玉名市)

キャンプをきっかけに 都城のファンに

キャンプを通して、年齢も職業も違う仲間が数多くできました。また、スノーピーク都城のオープン以来、足しげく通い、すっかり都城のファンに。地元の酒屋さんとも懇意になり、鶏肉の魅力にも取りつかれています。

家族で自然を 感じられる場所

明るくりニューアルされていて、子どもを連れてきやすくなりました。日常の喧騒から離れてくつろぐにはぴったりの場所。キャンプ気分が気軽に楽しめるコテージなどに泊まり、ゆっくり自然を感じたいです。



豊増 尚美 さん
めぐる 環 さん(祝吉地区)



1・3・4・10・11・13・14 キャンプフィールド、2・8・9・12 ストア前公園、5 観光ガイド「むかえびと」の皆さん、6 カフェ、7 広縁

関之尾公園で、思い思いの最高を

リニューアルに伴い、過ごし方の幅が広がった関之尾公園。泊まるもよし、散策するもよし、思いっきり走り回るもよし。さまざまな過ごし方で関之尾の自然を満喫する皆さんの笑顔をお届けします。



※紙面に収まりきらなかった皆さんの笑顔を市公式YouTubeで公開中





NPOのイベントには多くの子どもたちが参加

地域に集まる注目が活動の追い風に

旧持永家(町家カフェもちなが邸)を拠点に、地域の歴史や食を活用した新たなコミュニティの創造を目指すNPO法人を運営しています。長年、地域に根差した活動に取り組んできましたが、関之尾公園リニューアルで今、庄内地区が注目されていることを実感しています。この機会に、さらに若い人や子どもたちなど次世代に輪を広げていきたいです。



NPO法人
手仕事舎そうあい
溝生 芳子 代表



庄内地区まちづくり協議会
朝倉 脩二 事務局長

地域の力で広がる交流の輪

庄内地区では、コミュニティバス運行をはじめ「自分たちでできることは、自分たちでやろう」という意識が根付いています。関之尾公園を訪れる人たちに霧島山や庄内川の美しい風景を感じてもらい、庄内地区の魅力にも触れてもらえるよう、フットパスの取り組みを始めました。スノーピークとの連携をさらに深め、地域活性化につなげていきたいです。



霧島山と庄内地区の街並み



スノーピーク都城主催のイベントに商工会で出店

足を止めたくなる元気なまちに

関之尾公園リニューアルをきっかけに、商工会も「まちが元気にならないと、人も来てくれない」という思いで、マルシェやイベント出店など新たなチャレンジを始めました。ここ数年で、マインドもより一層前向きに変わってきたように思います。庄内地区は、自然豊かで街並みも素敵な場所。ぜひ多くの人に足を止めてもらい、地域の魅力を感じてほしいです。



庄内商工会女性部
(編製工房Yokoyama)
横山 ルミ 部長



安藤酒造
安藤 幸恵 さん

キャンプを通じて焼酎の魅力を発信

当店では、イベント出店やキャンプ専用焼酎「ゆらり。」の開発など、焼酎の魅力を伝える取り組みに力を入れています。関之尾公園リニューアル後は、SNSを見て焼酎を買いに立ち寄ってくれるキャンパーも増えつつあります。今後も同公園内で開催するSHOCHU CAMPなどのイベントを通して、焼酎の魅力を広めていきたいです。



SHOCHU CAMP (焼酎を楽しむイベント) でふるまわれた市内蔵元の焼酎



関之尾公園内で子ども自転車体験

関之尾公園×自転車で忘れられない思い出を

雪峰祭への出店やEバイク体験会のサポートなどを通じて、訪れる人たちに自転車に触れるきっかけづくりを提供しています。自然をダイレクトに感じられることはもちろん、通りすがりの人と話したり、新しいお店を見つけたりとさまざまな出会いがあるのも自転車ならではの魅力。関之尾公園での新しい過ごし方として、自転車の魅力を発信していきたいです。



しほ屋りん
車屋
野下 誠 さん
絵美子 さん



1 自然いっぱい庄内の魅力を堪能できるフットパス、2 Eバイクで関之尾公園を飛び出してサイクリング、3 自然の中でナチュラルワインを楽しむ「益ナチュール」、4・5 庄内地区の歴史や食文化を生かした子どもたちの田舎暮らし体験、6 都城の食と焼酎を堪能できるSHOCHU CAMP



地域を 活性化する 人たちがいます

関之尾公園リニューアルを起爆剤に、庄内地区の活動は活発化しています。「地域全体を活性化させたい」思いを共にする皆さんに話を聞きました。

スノーピーク都城
アドバイザースタッフ
泉田 詩音 さん

関之尾公園から
都城の魅力を高める

都城の第一印象は「活気ある元気なまち」。個性豊かな店が数多くあるのが魅力の一つだと感じていて、この活気を関之尾にも取り込めないうかが考えました。まずは、スノーピークの感謝祭「雪峰祭」に併せて「関之尾マルシェ」を企画。地域の事業者を知るために、お客様がおすすめする店やMaimaiのまちなかマルシェに足を運びました。そこで出会った、関之尾を元気にしたいという思いに共感してくれた事業者さんたちの協力を得ながら、10月には3回目のマルシェを開催。今後も定期的にイベントを開催していく

ことで、関之尾のにぎわいを庄内地域全体の活性化につなげたいと考えています。また、キャンプ場でありながら市街地に隣接している、まちと密接につながることができるようスノーピーク都城ならではの強み。ゆくゆくはまちなかや市内の他の地域も巻き込んで「まちそとマルシェ」を実現するのが目標です。開業直後のこのにぎわいを継続・発展させるには地域の皆さんの力が欠かせません。地域全体で一つになって観光を作り上げ、関之尾から都城の魅力をさらに高めていくことを目指しています。



1 スノーピーク都城関之尾公園入口、2 リニューアルの中心となった市担当者（左から橋口信一主任・原口文代部長・西田暢副主幹）、3 スノーピークスタッフ・レストランスタッフ・市担当課（みやこんじょPR課）職員・市観光協会職員



関之尾公園の新しい物語 —あなたも主人公に—

時代とともに変化する観光のあり方。正解がないからこそ、人を惹きつけるには、地域の実情に応じた創意工夫が必要です。関之尾公園はどのような可能性を秘めているのでしょうか。2人の専門家にインタビューを行うとともに、市担当者の思いを聞きました。

地域間で連携し、周遊性を高める仕組みづくりを

都城市のみならず県を代表する景勝地である関之尾公園。私も家族で訪れたことがある思い出場所の一つです。その関之尾公園が、スノーピークのキャンプフィールドとしてリニューアルされたことは、本県の観光業界でも大きなトピックでした。

旅行者一人当たりの消費額が低い本県では、「泊まってもらう」「食べてもらう」仕組みづくりを地域内のみならず地域間で構築していくことが肝要です。関之尾公園が地域の観光の核となり、地域内外との連携を強くすることで観光客の周遊性が高まることを期待しています。今年度開通予定の都城志布志

道路により、鹿児島県と都城の距離はさらに近くなります。関之尾公園が都城の観光の窓口となることで、志布志港を通じて、鹿児島だけでなく関西からの観光誘致も可能でしょう。また、自然豊かな霧島ジオパーク内に位置するというつながりを生かし、西諸地域や鹿児島県の大隅地域との連携も十分可能ではないでしょうか。

奥ゆかしい県民性からか、「宮崎には何もないよ」と言いがちな私たちですが、そんなことはありません。まずは、市民・県民一人一人が地元の観光地に愛着を持ち、その魅力を外に発信していくことが大切だと思います。



宮崎県観光協会
総務企画・スポーツランド推進局
秋岡 敬信 局長

観光の新たな可能性を拓くために

青島や霧島温泉郷など名だたる観光地の間に位置する関之尾公園。長年、短時間の休憩場所と捉えられている面がありました。市の観光を推進するために、「どうにかしたい」と検討を重ねる中、縁あってスノーピークと共にリニューアルに取り組むことに。同社選定の決め手は、「関之尾の魅力を最大限伝えられる設計」「地元のことを大切に作る姿勢」「キャンプ場運営の実績」の3点でした。

コロナ禍を挟み長期化した計画期間中、スノーピークや地元関係者などと喧々囂々の議論を重ねま

した。重視したのは地域との共生。地域に愛されない施設は長続きしません。また、地元産業の振興にもつながる取り組みも模索する中、10月には市内蔵元とスノーピークが共同開発した焼酎や梅酒を発売。願っていた夢が叶い喜びもひとしおでした。一方で、これはあくまでスタート。今後さまざまな人々と連携し、地域の資源を磨き上げ、観光の可能性を切り拓いていきたいです。



商品発売をSNSで発信

関之尾公園で新しい物語を紡ぎませんか

地域の熱意や行政の実行力に、関之尾の魅力を存分に引き出す企業のビジョンが掛け合わさって実現した、今回のリニューアル。立ち寄り、滝を眺めるだけの「観光地」ではない、さまざまな過ごし方ができる「特別な場所」が私たちのまちに誕生しました。

朝露をたたえた庄内川を眺め、コヒーを片手にゆったりと過ごす朝。

関之尾の空気を胸いっぱい吸い込みながら、緑の中を散歩する昼下がり。

遠くに滝の轟きを聴きながら、はぜる焚き火の炎を見つめる夜のキャンプ。

十人十色の過ごし方ができる関之尾公園で、これからも訪れる人々によってさまざまな物語が紡がれるでしょう。

関之尾公園の新しい物語はまだ始まったばかり。もっとこの場所を愛し、誇り、私たち自身でそのページを紡いでみませんか。



南九州大学環境園芸学部
環境園芸学科
平岡 直樹 教授

自然と人の調和 関之尾公園が新たな輝きを放つ

これまでの関之尾公園は、施設の老朽化に加え、樹木が育ちすぎて陽が当たらず暗いイメージがありました。日本の気候では、植物に手を入れず放置すると過剰に繁茂し、景観の乱れだけでなく、病害虫の発生や安全性の問題も生じる可能性があります。人の手が入らないありのままの自然が、必ずしも私たちがイメージする美しい自然景観であるとは限りません。リニューアルでは滝や川への眺望を重視しながら、自然にも適切に手が入りました。結果、木々の間から太陽の光が差し込み、ストアやコテージなどの建築物から眺める風景は、きらめくような美しさを見

せてくれます。この美しい景観を維持するには、今後もメンテナンスが必要で負担もあるかと思いますが、継続的な取り組みが望ましいでしょう。

また、関之尾公園を含む周辺地域は子どもたちにとっても自然学習の場として最適な場所です。豊かな自然の中で、フィールドワークや自然観察、自然体験などを通して、「自然を守り、大切に作る心」が学べます。さらに、幼少期の思い出は、大人になったときのふるさとの思い出にもつながるでしょう。都城を離れたとしても、関之尾公園が故郷の人々を結び架け橋になることを期待しています。